

骨・運動器領域の基礎研究の国内外の動向



- 司 会 小守 壽文(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 細胞生物学分野 教授)
- 出席者 宿南 知佐(広島大学大学院医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻 生体分子機能学 教授)
- 小林 泰浩(松本歯科大学 総合歯科医学研究所 硬組織機能解析学 教授)
- 池川 志郎(理化学研究所 統合生命医科学研究センター 骨関節疾患研究チーム チームリーダー)
- (ご発言順)

はじめに

小守 本日は、骨代謝研究の第一線でご活躍の先生方にお集まりいただき、「骨・運動器領域の基礎研究の国内外の動向」と題しまして座談会を開催いたします。それぞれの研究領域に関するお話を窺ってまいります。宿南知佐先生には「腱・靭帯、腱・靭帯付着部の形成機構」について、小林泰浩先生には「Wntシグナルによる骨代謝制御」について、そして池川志郎先生には「骨関節の遺伝病」について、最新のトピックスを中心にご紹介いた

だきたいと思います。

腱・靭帯、腱・靭帯付着部の形成機構について

小守 それでは、はじめに宿南先生から、腱・靭帯の形成機構についてお願いいたします。

宿南 腱・靭帯組織を特徴付ける分子マーカーとして、転写因子Scx (scleraxis)¹⁾、II型膜貫通タンパク質Tnmd (tenomodulin)²⁾、ホメオボックス遺伝子Mkx (mohawk homeobox)³⁾、転写因子Egr1 (early growth response 1)/Egr2 (early growth response 2)が有用であることが報告され